

今月の

ブックトーク

この春、新しい友だちはできましたか？今日は「友だち」に関する本を紹介します。

「ふたりはきょうも」に出てくる、がまくんとかえるくんは大の仲良し。でもある日、かえるくんの家のドアに「ぼくはいません。でかけています。ひとりきりになりたいのです」と書かれた紙が貼られていました。ぼくという友だちがありながら、ひとりきりになりたいなんてなぜ？と思いつつ、がまくんが探しに行くと、ひとりで川の真ん中に座るかえるくんを見つけました。かえるくんのためにおいしい昼ご飯を用意し、なんとかたどり着いたがまくん。途中川に落ちて昼ご飯はどろどろでしたが、そんながまくんにかえるくんが話した“ひとりきりになりたかった理由”とは…？なんだかじーんとする「ひとりきり」というお話です。この巻の「ぼうし」という話も、友だち思いですと笑えますよ。

がまくんたちのように、全然違う性格の男の子2人を描いたのは「**王様のキャリー**」。主人公の勝生が病院で出会った車椅子の少年は、ゲーム配信をしている憧れの「lion」でした。気を使いすぎる勝生と、攻撃的な王様発言が多いlion＝リオ。正反対の2人ですが、勝生のゲームのランク上げ（＝キャリー）をしてもらえることになり、リオの家で一緒にゲームをするようになります。次第に崇拜する存在から友だちへと変化していきますが、ゲーム大会への出場に関することで大喧嘩に…。2人の関係はこのまま終わってしまうのでしょうか？車椅子のこと、eスポーツのことも知れて、友情とは何かが伝わってくるお話です。



アーノルド・ローベル・作
三木 卓・訳
文化出版局



まひる・著
講談社

友だちだからこそ…

鈴木 千尋／和光小学校学校司書

さて、こちらの「**天才コオロギニューヨークへ**」の表紙を見てください。猫がネズミたちを狙っている、と思いますよね？でも実は、この猫はねずみのタッカーの友だち。ニューヨークのタイムズ・スクエア駅に住む2匹は、ひよんなことで田舎からニューヨークへやってきてしまったコオロギのチェスターとも仲良くなります。チェスターは駅の新聞売り場の少年マリオに飼われることになりました。3匹は売店の中でパーティーをして火事を起こしてしまい、マリオの家族に迷惑をかけてしまいます。そこで、歌がうまいチェスターが演奏を披露することに。その歌声に惹かれてたくさんのお客が毎日売店に来るようになり売り上げは絶好調。でも、人前で歌うことに疲れてきたチェスターは、田舎に帰りたくなって…。最後に彼が下した決断を、仲良しの2匹やマリオはどのように受け止めるのでしょうか。

友だちと過ごすのは楽しいけれど、悩むこともありますよね。「**大人に言えない小さな悩みが少しだけ軽くなる本**」シリーズの「**第2巻 友だち・家族のこと**」は、友だちの態度が急に変わった、グループで気を使うなど皆さんも抱えているかもしれない悩みに寄り添ってくれる本です。大人に相談しにくいことへのアドバイスが載っています。ただ、この本を読んでも解決しない時は、もしよかったら私たち大人に話してみてください。なぜなら私たちも皆さん同様、悩みながら大きくなったからです。気持ちがわかる部分もあると思うので、ぜひ頼ってみてくださいね。



ジョージ・セルデン・作
ガス・ウィリアムズ・絵
吉田 新一・絵
あすなろ書房



田村 節子・監修
Gakken

最後のページのクイズの答え： Q1 ② 南のあたたかい国 Q2 ③ 貝塚 Q3 ① 困難を乗り越えて立身出世してほしい Q4 ② かしわもち

